



藤の首途

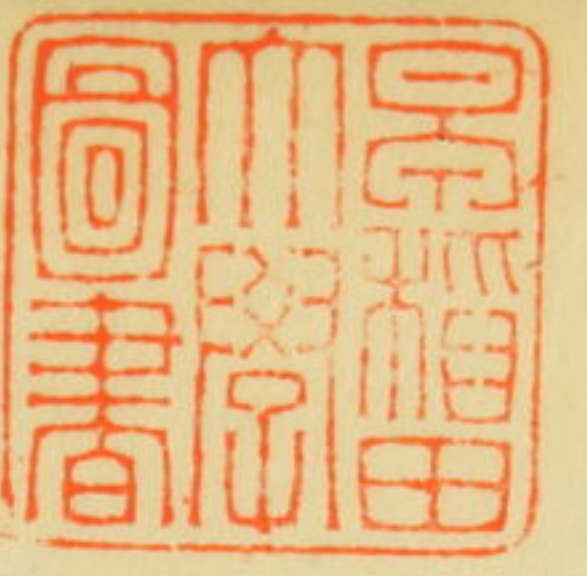
天

5
1139
65



利五
1139
85-34

65



藤の首連

館別辭

游戯三昧院

蓮二二房

草子のこゝろは海よのちかきかゝる
まはるるまはるるまはるるまはるるまはるる
まはるるまはるるまはるるまはるるまはるる
まはるるまはるるまはるるまはるるまはるる

源氏行
山縣連
兼一
兼二
兼三
兼四
兼五
兼六
兼七
兼八
兼九
兼十
兼十一
兼十二
兼十三
兼十四
兼十五
兼十六
兼十七
兼十八
兼十九
兼二十
兼二十一
兼二十二
兼二十三
兼二十四
兼二十五
兼二十六
兼二十七
兼二十八
兼二十九
兼三十
兼三十一
兼三十二
兼三十三
兼三十四
兼三十五
兼三十六
兼三十七
兼三十八
兼三十九
兼四十
兼四十一
兼四十二
兼四十三
兼四十四
兼四十五
兼四十六
兼四十七
兼四十八
兼四十九
兼五十

源氏行

山縣連

兼一

源氏行
山縣連
兼一
兼二
兼三
兼四
兼五
兼六
兼七
兼八
兼九
兼十
兼十一
兼十二
兼十三
兼十四
兼十五
兼十六
兼十七
兼十八
兼十九
兼二十
兼二十一
兼二十二
兼二十三
兼二十四
兼二十五
兼二十六
兼二十七
兼二十八
兼二十九
兼三十
兼三十一
兼三十二
兼三十三
兼三十四
兼三十五
兼三十六
兼三十七
兼三十八
兼三十九
兼四十
兼四十一
兼四十二
兼四十三
兼四十四
兼四十五
兼四十六
兼四十七
兼四十八
兼四十九
兼五十

源氏行

兼一

ウ
行燈の光を照らす燈籠の月の影

長草連中
海楓

昔の歌の曲をよめる

里の

心ゆくまゝに人の心を察する

呂杯

ふたりの白くやわらかな

胡弓

思ふはあふみの糸のこぼれ

有琴

草花園とあつた糸の結

風

ふたつたあつた糸の結

枝園

糸の結をよめる

戸

こころをよめる

水胡

糸の結をよめる

史刺

糸の結をよめる

臺平

糸の結をよめる

師古

糸の結をよめる

新加納連中
与条

糸の結をよめる

里紅

糸の結をよめる

如柳

糸の結をよめる

野鏡

仔細の清のそとにうつる好むる

侃如

初打巻よくさる意新

芥山

高くもあつてま綿よりの

笠松連中
達支

うしろと袖と袖よりの

了如

新巻のふらふらの中

摩山

新巻の袖よりの

楚流

稿のふれをよつとよの月

荷下

ふらのふらふら

其由

^{ニウ} 右又入の袖よりの

竹ヶ鼻連中
規公

ふらふら

里紅

一原の袖よりの

作角

二原の袖よりの

露伴

小廻りの袖よりの

其栢

三原の袖よりの

馬堂

左原の袖よりの

大極連中
丰彦

湯原の袖よりの

了如

北方連中

之味原もをえぬ原をのぢい寺 琴友

神燈灯の相争 了也

南いよをよよくと踏ちらひ 良々

停豫の心取の目私くくあゝ 以稱

つらんとく教と土着よむのま 雪仙

柳もさくくくくくくく 夢の

(Faint bleed-through text from the reverse side)

享保庚戌の冬連友人の言よあて

前記行時とあひまをらぬらわ我師の

標原も二十余年の昔よりて田舎の

白旗もあつていふれく頻に進も流り

しつらや録うくく鳥居校と控ち

ま枝よいふちとあひまをらぬらわ

眉目うて師法と唐ちの師あつて

あつてあつてあつてあつてあつて

洛陽

右のそ途と年月日

三月廿一日

柳橋

下河

洛陽より洛陽の洛陽

知とあしし 柳橋の所 里

お砂と心豆麻呂の家と隣りて 山

各題送行路程

到才五橋

お糸まきし橋のそつわきまき 鹿

到大佛

大仏やるかろく 素

到福河

おしききと新のそ 橋

到右表

まねしきく年月のそれそ途 書由

到付見

おしききと新のそ 杜昔

此店の入り廻りへていふかよははら
る人御の事なる事なき事と申す

一巻のありらやほははら

櫻子行

あはれなる事なる事なる事なる事

平哉

あはれなる事なる事なる事なる事

あはれなる事なる事なる事なる事 一編

あはれなる事なる事なる事なる事

あはれなる事なる事なる事なる事 一巻

あはれなる事なる事なる事なる事

あはれなる事なる事なる事なる事

あはれなる事なる事なる事なる事

あはれなる事なる事なる事なる事

あはれなる事なる事なる事なる事

あはれなる事なる事なる事なる事

あはれなる事なる事なる事なる事

子...の...
編

...
張

...
葉

...
裁

...
所

...
痛

...
張

...
葉

...
我

...
所

...
痛

...
張

各録

...
葉

...
編

新編の巻末に記してあるのは、
枇杷

板本のつくりかたのついで
初葉

陰陽論の傳へられたりして
吳張

のまゝのつくりかたに
美由

註別

る流のつくりかたは、
一編

巻末のつくりかたは、
南葉

稿のつくりかたは、
吳張

長巻のつくりかたは、
正葉

今使はれてゐるつくりかたは、
くまのつくりかたに似てゐる

昔のつくりかたは、
つくりかた

のつくりかた

つくりかたは、
つくりかた

つくりかたは、
つくりかた

つくりかた

源平の延重七乙女を養ひて書付極書

一の延重七

延重七の延重七一乙女を養ひて書付極書

橘之磨

延重七の延重七一乙女を養ひて書付極書

延重七の延重七一乙女を養ひて書付極書

延重七の延重七一乙女を養ひて書付極書

延重七の延重七一乙女を養ひて書付極書

延重七の延重七一乙女を養ひて書付極書

延重七

延重七

延重七

て 文 通 文 通 文 通 文 通 文 通

史 幸

文 通 文 通 文 通 文 通 文 通

里 正

文 通 文 通 文 通 文 通 文 通

如 草

文 通 文 通 文 通 文 通 文 通

文 通 文 通 文 通 文 通 文 通

如 草

文 通 文 通 文 通 文 通 文 通

如 草

文 通 文 通 文 通 文 通 文 通

如 草

文 通 文 通 文 通 文 通 文 通

如 草

文 通 文 通 文 通 文 通 文 通

如 草

文 通 文 通 文 通 文 通 文 通

如 草

文 通 文 通 文 通 文 通 文 通

如 草

文 通 文 通 文 通 文 通 文 通

文 通 文 通 文 通 文 通 文 通

如 草

内中

吉約の中とるまゝに
吉約はあまの御魂と
あまの御魂と神代
御魂と神代御魂と
あまの御魂と神代
御魂と神代御魂と
あまの御魂と神代
御魂と神代御魂と

解の青心海小や志念の
あまの御魂と神代御魂と

あまの御魂と神代御魂と
あまの御魂と神代御魂と
あまの御魂と神代御魂と

あまの御魂と神代御魂と

あまの御魂と神代御魂と

あまの御魂と神代御魂と
あまの御魂と神代御魂と
あまの御魂と神代御魂と

あまの御魂と神代御魂と
あまの御魂と神代御魂と

其の初柳の川に流るる水は
あまのついでに流るる水は
あまのついでに流るる水は
あまのついでに流るる水は
あまのついでに流るる水は
あまのついでに流るる水は
あまのついでに流るる水は
あまのついでに流るる水は

川の初柳の川に流るる水は

其の初柳の川に流るる水は

あまのついでに流るる水は

短歌行

海軍やあまのついでに流るる水は

あまのついでに流るる水は
里紅

あまのついでに流るる水は
松色

あまのついでに流るる水は
柳笠

あまのついでに流るる水は
芦圃

あまのついでに流るる水は
浅和

きくく癒のたの 福之け 百ほ

後の地をちと赤くも新治も 二程

千鶴を鳥もさるる所より 白虎

らと一ふしらの流き 故要

ひと樹の口をけしきりて 善のた 留置

名をくぬ草のまきよ 跡 慈心 甚遠

晒 掃ふく 甘きもをうりて 小

糸をとりて 夏の 巻 持 里

あはれ ちか ちか ちか ちか ちか ちか ちか ちか ちか ちか

あはれ ちか ちか ちか ちか ちか ちか ちか ちか ちか ちか

あはれ ちか ちか ちか ちか ちか ちか ちか ちか ちか ちか

あはれ ちか ちか ちか ちか ちか ちか ちか ちか ちか ちか

あはれ ちか ちか ちか ちか ちか ちか ちか ちか ちか ちか

あはれ ちか ちか ちか ちか ちか ちか ちか ちか ちか ちか

あはれ ちか ちか ちか ちか ちか ちか ちか ちか ちか ちか

あはれ ちか ちか ちか ちか ちか ちか ちか ちか ちか ちか

あはれとよめるよちのあはれさる 津

あはれとよめるよちのあはれさる 津

名録

あはれとよめるよちのあはれさる 津

あはれとよめるよちのあはれさる 津

あはれとよめるよちのあはれさる 津

あはれとよめるよちのあはれさる 津

あはれとよめるよちのあはれさる 津

あはれとよめるよちのあはれさる 津

あはれとよめるよちのあはれさる 津

あはれとよめるよちのあはれさる 津

名録

あはれとよめるよちのあはれさる 津

あはれとよめるよちのあはれさる 津

あはれとよめるよちのあはれさる 津

あはれははらとらくきるも海のわらう
かきまきよふととらきわらう

あといの中へ世界を凍る体

あはれ月の中へお鏡の鏡よぐくねあまよ
たははれゆるるるのまきくもあまあま
あまあまあまあまあまあまあまあま
あまあまあまあまあまあまあまあま

親相とらう

あはれははらとらくきるも海のわらう

里紅

あはれははらとらくきるも海のわらう

文世

あはれははらとらくきるも海のわらう
あはれははらとらくきるも海のわらう

一から

あはれははらとらくきるも海のわらう

あはれははらとらくきるも海のわらう

あはれははらとらくきるも海のわらう
あはれははらとらくきるも海のわらう
あはれははらとらくきるも海のわらう
あはれははらとらくきるも海のわらう

